



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4025 号 2017.11.18 発行

革新的な車いす、トヨタが募集 賞金総額は驚きの… 朝日新聞 2017年11月17日

トヨタ自動車が設けている「トヨタ・モビリティ基金」は16日、車いすや歩行器の国際的なコンテストを催すと発表した。総額400万ドル（約4・5億円）の賞金を出し、障害者の移動を助ける革新的なアイデアを支援する。従来にない形のほか、人工知能やクラウドコンピューティングの活用も想定している。

「モビリティ・アンリミテッド・チャレンジ」と名付け、国内外の個人と団体を対象に、2018年夏までインターネット上で募集する。専門家が選んだ5人に試作費として各50万ドルを提供。さらに、5人の中で最も優秀だった1人に、完成させる費用としてさらに100万ドルを出す。最優秀者は東京パラリンピックがある20年夏に発表する。

本選考に先立ち、資金はないが有望なアイデアがある10人に5万ドルずつ支援する。

トヨタは国際パラリンピック委員会とワールドワイド・パートナー契約を結んでいる。（竹山栄太郎）

<林瑞絵の欧州だより>ナントで日本展 障害者の和太鼓 観客魅了



北海道新聞 2017年11月17日

長崎県雲仙市から、知的障害者によるプロの和太鼓チーム「瑞宝太鼓」も参加した

大西洋岸に近いフランス屈指の文化都市ナント。10月19日から25日まで、障害者の芸術活動をテーマにした大規模なイベントが開催された。文化芸術国際交流事業「2017ジャパン X ナントプロジェクト」だ。日本のアール・ブリュット（正規の美術教育を受けていない作家の芸術作品）の展示や障害者の舞台芸術の発表、日本で開発された視覚・聴覚障害者のためのバリアフリー映画の上映、専門家が

が集まる国際研究フォーラムなどで構成される。

### ■パリで12万人集客

日本のアール・ブリュットは、10年ほど前より欧州で紹介されてきた。2010年にパリのアル・サン・ピエール美術館で「アール・ブリュット・ジャポネ」展が開催され12万人を集客、13年には世界最大規模の芸術祭ベネチア・ビエンナーレで、自閉症の芸術家、沢田真一さんの陶芸作品が出展されるなど、確かな足跡を残している。

一方、日本の障害者による舞台芸術が海外で紹介されるのは稀（まれ）なこと。今回、伝統芸能、ダンス、演劇といった舞台芸術を、まとまった形で海外で紹介する初の試みとなった。その中の一つ、長崎県雲仙市を拠点とする「瑞宝太鼓」は、知的障害者による

ロの和太鼓チーム。邪気を払うような神聖で力強い太鼓の響きに、ナントの観客はたちまちくぎ付けに。息の合った演奏技術に加え、奏者の豊かな表情にも心とらぐ魅力あふれる演奏だ。会場には本イベントのスーパーバイザーであるジャン＝マルク・エロー名誉市長の姿もあった。彼は市長時代に町を文化の力で再生させた立役者。家族で演奏を鑑賞し、最後には立ち上がり拍手を送っていた。

### ■芸術の強みは個性

瑞宝太鼓のメンバーを率いる社会福祉法人南高愛隣会の田島光浩理事長は「良いものは素直に“ブラボー”と称賛される。まるで映画の世界」と笑う。今回は新しい課題曲に挑戦しながら、2年をかけ準備。障害者の舞台芸術を世界にアピールするお披露目の場であり、「失敗できない」というプレッシャーもあったというが、不安を一瞬で吹き飛ばす好反応である。「障害者の可能性を閉じ込めているのは健常者ではないか。これからは彼らの価値ある作品を提供できる場をもっと作っていければ。芸術の質は健常者と異なるかもしれないが、障害者だからこそ出せる味がある」。思えば芸術は個性こそが大きな強み。障害という個性を生かせるのも、芸術のなせる技だろう。障害者の芸術の可能性に思いを巡らせた。(はやし・みずえ=映画ジャーナリスト)

障害者や支援者が演奏 「であいのこんさあと」 秋田魁新報 2017年11月17日  
歌などを通して障害者への理解を深めた「であいのこんさあと」



障害者やその支援者らが歌や演奏などを披露する「であいのこんさあと」が12日、秋田市山王の県児童会館で開かれ、来場者約300人が多彩なステージを楽しんだ。

障害者や支援者などでつくる実行委員会（進藤雄一代表）が、障害者への理解を深めてもらおうと1980年から毎年開催し38回目。今年は県内外から11組が出演し、障害者やその家族が作詞したオリジナルソング

やバンド演奏、詩の朗読などを披露した。

知的障害の柔道選手4人、黒帯に昇段 講道館が内規変更 朝日新聞 2017年11月17日  
左から清水さん、福村さん、上村館長、小林さん、長谷川さん



講道館の上村春樹館長がこのほど、知的障害がある神奈川県の大磯町の浜名道場に通う福村翼さん（26）、小林陸さん（19）、清水瑚都（こと）さん（18）、長谷川大智さん（16）の4人。それぞれ幼い頃から10年前後、健常者に交じって柔道に励んできた。

と、講道館が内規を変更。4人がこの変更を利用して昇段した最初のケースとなった。

今回初段に昇段したのは、神奈川県大磯町の浜名道場に通う福村翼さん（26）、小林陸さん（19）、清水瑚都（こと）さん（18）、長谷川大智さん（16）の4人。それぞれ幼い頃から10年前後、健常者に交じって柔道に励んできた。大会出場実績なくても可能に



初段には満14歳から挑戦できるが、これまでは昇段には原則として大会への出場実績が必要だったため、出場機会のない4人には資格がなかった。指導する浜名智男さんは「同じ道場で一緒にがんばってきた健常の仲間がだんだんと黒帯を取っていく中で、4人の努力も認めてあげたいとずっと考えていた」。

そんななか、講道館が「障害のある人も含め、様々な柔道家に昇段の門戸を広げたい」と昨年、昇段資格に関する内規を変更。大会への出場実績がなくても一定の技能を身につけていれば昇段を認めることになったことから、4人が今回、昇段試験に挑んだ。

柔道は視覚障害だけがパラリンピックの種目になっているが、知的障害者の柔道は国内でも普及が進んでおらず、大会もほとんどない。浜名さんは、4年に1度行われる知的障害者の世界大会「スペシャルオリンピックス(SO)」への出場を目指し、今年から「SO日本」の柔道部会を設けたばかりだ。「世界大会につながれば選手の励みになる。全国大会が開けるよう普及に努めていきたい」と話す。

免状を受け取った後、初めて黒帯を締めて講道館内の道場で技を試した福村さんは「これからは連続技をがんばりたい」と意気込んでいる。(伊木緑)

### NBA元スター・ムトンボ氏がBリーグ訪問 社会貢献で意見交換

サンケイスポーツ 2017年11月17日

米プロバスケットボールNBAの元スターで、知的障害者が参加するスポーツイベントのスペシャルオリンピックスのアンバサダーを務めるディケンベ・ムトンボ氏(51)が17日、東京都内のBリーグ事務局を訪問し、大河正明チェアマンと社会貢献について意見交換した。

18日にはBリーグのA東京-北海道で知的障害者も参加するバスケットボールを披露する。一緒にプレーする予定のムトンボ氏は「知的障害のある方を排除するのではなく、取り込んでより良い環境をつくっていく」と意義を強調した。

大河チェアマンは熊本地震の被災地支援などに取り組んできた実績を紹介。「これを初年度からやるのがBリーグの存在価値だと思ってやってきた」と話した。

### 京都・中丹支援学校の3人、全国スポーツ大会でメダル 京都新聞 2017年11月17日



全国障害者スポーツ大会で勝ち取ったメダルを手にする(左から)田中さんと柴山さん、種子田さん=福知山市私市・府立中丹支援学校

10月下旬に開催された全国障害者スポーツ大会で、京都府福知山市私市の府立中丹支援学校高等部の生徒3人が、金、銀、銅メダルに輝いた。生徒たちは強豪が集まる全国の舞台で刺激を受け、今後の練習にも意欲を燃やしている。

大会は10月28～30日、松山市で開かれ、各都道府県と政令指定都市を合わせた67選手団の計約3300人が出場した。

知的障害がある3人は、昨年の京都大会で好成績を残し、府代表として出場。3年の田中慎悟さん(17)は、プラスチック製のやりを投げる「ジャベリックスロー」で優勝、2年柴山薫奈さん(17)は立ち幅跳びで3位に。フライングディスクに出場した2年種子田大雅さん(16)は、円盤を輪の中に通す「アキュラシー」で準優勝、円盤の飛距離を競う「ディスタンス」で3位となった。

3人は6月から、休日や昼休みに練習に励んだ。自己新記録の43メートル超で金メダルに輝いた田中さんは「やり投げのリズムを身につけるのに苦労したが、大会はリラックス



スして挑めた」と笑顔。柴山さんは「目標には届かなかったけど、練習の成果が出せた」。メダル2個を獲得した種子田さんも「メダルにはこだわっていなかったが、うれしい」と喜んでいる。

同校は「全国という大舞台で生徒が活躍したことは、他の生徒の自信や目標にもつながる」と期待する。3人は「スポーツは楽しい。大会で強い選手と出会い、上には上がいると感じた」と話し、今後も野球や陸上などを続けていくという。



## 風テラス 風俗業の女性支援 弁護士ら、大阪などで相談会

毎日新聞 2017年11月17日

弁護士に破産手続きの相談をする風俗業の女性＝大阪市北区で2017年10月26日、三村政司撮影

性風俗業で働く女性の法律・生活相談に弁護士や精神保健福祉士が応じる「風（ふう）テラス」が今年から大阪市内で開かれている。「借金が返せない」「交際相手が働かない」――。身元や職業を明かしくく、公的支援とは縁遠い女性らの悩みに寄り添う試みで、現在は特定の風俗店で働く女性が対象だが、今後活動を広げる方針だ。【原田啓之】

離婚や借金、源氏名でも

ある週末の午後。大阪・京橋の繁華街にあるマンションの一室で相談が始まった。無店舗型風俗店の女性たちが仕事の連絡を待つ「待機部屋」だ。

「借金がたまって返せないんです」。この店で働く女性（39）が弁護士らに窮状を打ち明けた。「男がいるんです。働かなくて……」

女性は以前、近畿郊外のスナックで勤めていた。しかし、同居していた年下の男性が働かず生活費をせびり、外車の購入までねだるようになった。女性は断りきれずに借金を重ね、割のいい仕事を求めて2年前から風俗店で働き始めた。

ホテルで客を取ると月20万～40万円の稼ぎになるが、店に向かう足取りは重い。帰宅しても男性はお帰りも言わず、携帯電話のゲームに夢中だ。借金は300万円に膨らみ、ガスを止められた。「私、何でこんなことしてるんやろ」

女性は相談後、男性と別れて大阪に転居し、弁護士の支援で自己破産を申し立てた。いつか地元で別の仕事に就こうと考えていると言い、「追い詰められて1人ではどうしようもなかった。相談できて良かった」と話す。

風テラスは、障害者の性の問題などに取り組む一般社団法人「ホワイトハンズ」（新潟市）が2015年、東京で始め、今年から大阪と新潟に活動を拡大した。

大阪では、川上博之弁護士（大阪弁護士会）らがこれまでに5回開催し、延べ約10人から離婚や債務整理などの相談を受けた。寄付で経費を賄うため相談は無料。川上弁護士は「身分を明かさず源氏名でも相談できるので、まずは気軽に話をしてもらい、一緒に問題解決の方法を考えたい」と話す。

警察庁によると、営業を届け出ている無店舗型風俗店は全国で約2万店ある。

現在は対象を限定しているが、12月23日には大阪市北区の「ゼラス法律事務所」で他店の女性の相談も受ける。定員4人。氏名（源氏名でも可）、年齢、相談内容を明記してメール（futuresu@whitehands.jp）で申し込む。

## 超クール！「超福祉展」 渋谷で認知症のシンポジウム

読売新聞 2017年11月17日

認知症の人が接客するレストラン「注文をまちがえる料理店」がテーマのシンポジウム

が、今月11日に東京・渋谷で開かれました。私も、このレストランのことを報じたメディアの側から、少しお話をさせていただきました。

「超福祉展」で開かれた「注文をまちがえる料理店」のシンポジウム。客席は満員で、関心の高さがうかがえた

「注文をまちがえる料理店」は、今年6月と9月に期間限定で東京都内にオープンしました。認知症の人が接客するのでいろいろとミスも起きますが、店名の通り、間違えるのが当たり前ですから、どうか大目に見てください——という試みです。認知症の人が間違えることを、問題視するのではなく、受け入れて一緒に楽しんでしまおうという考え方が評判を呼び、国内外のメディアで大きく取り上げられました。



シンポジウムには、このレストランを企画したテレビ局ディレクターの小国士朗さんも参加しました。小国さんは、取材で訪れたグループホームで「今日のお昼はハンバーグ」と聞いていたのに、実際にはギョーザが出てきた、というエピソードを話してくれました。その時「みんな、ギョーザをおいしそうに食べていた。だったらメニューを間違えても、別にいいんじゃないか」と思ったのが、この企画のきっかけになったのだそうです。

#### 障害があってもなくても「カッコイイ」

このシンポジウムは、11月7～13日に開催された「超福祉展」の一環です。正式名称は「2020年、渋谷。超福祉の日常を体験しよう展」。今年で4回目を迎えました。

「チョーフクシテン」という小気味よい響きとともに、「スタイリッシュで高性能な車椅子など、一見、福祉機器らしからぬ福祉機器を渋谷で展示している」「手足が不自由な人でもはきやすいスニーカーは、『デザインがカッコイイ』と、障害のない若者がこぞって買い求めているらしい」などの噂が広まり、私も耳にしていました。これまではタイミングが合わず、取材する機会を逃し続けてきたので、今回はわくわくしながら会場に足を運びました。

私が訪れた日は、土曜とあってかなりののにぎわいでした。若者や子どもたちの姿も目立ち、音声を文字にして映し出す眼鏡などの機器を楽しそうに体験していました。私も、認知症の人から見た世界を再現したバーチャルリアリティー（仮想現実）システムを試してみました。「実際には数十センチの高低差が、認知症の人には何メートルにも感じられることがある」といったことも、知識としては持っていましたが、この体験で、怖さを感じ覚的にも理解することができ、ドキドキしました。



#### バリアを超越する力に

##### バーチャルリアリティーを体験する来場者ら

「社会を動かしたい」と大きなことを考える時、その高邁な理念を推進する原動力になるのは、もしかしたら、「楽しい」「気持ちいい」「かわいい」「カッコイイ」といったシンプルな感覚なのかもしれません。それが、「超福祉展」と「注文をまちがえる料理店」をつなぐ共通点なのだと気づきました。

両者が目指すのは、障害者や認知症の人などのマイノリティー（少数者）とその他の人たちが、それぞれの違いを受け入れて共に暮らせる社会です。私たちの生活に「楽しい」や「カッコイイ」が増えていき、その力で人々を隔てる障壁を超越することができたら、それこそが「超クール」。シンポジウムと取材を通じて、そんなことを考えました。（ヨミドクター副編集長 飯田祐子）

## フードバンクを障害者の働く場に 集荷、仕分け、配達など



福祉新聞 2017年11月17日 編集部  
食品を箱詰めする利用者たち

宮城県富谷市のNPO法人ふうどばんく東北AGAINは今年5月、フードバンク（FB）団体としては全国初の障害者就労移行支援事業所「就労サポートセンターあがいん」（定員20人）を開所した。さまざまな人と出会い、触れ合うFB活動を通じ、復職・就労の実現を目指す。

FBは、食品メーカーやスーパー、個人などから過剰在庫や消費期限間近の製品などを寄贈してもらい、生活困窮者や福祉施設・団体などに無償で届ける活動。同法人は2008年に設立した東北で最も古いFBで、東日本大震災の際も全国から集まる食料品などの集配拠点として大きな役割を果たした。

現在は、同県全域を対象に年間約8トンの食料品を生活困窮者に届けたり、ホームレスの人々の炊き出しや子ども食堂の食事用として提供しており、支援者数は延べ約1万1000人に上る。

就労移行支援事業を始めたのは、大震災復興支援補助金の助成が受けられなくなるなど法人運営が厳しくなる中、独自の事業収益を確保するため。同法人理事が仙台市で就労移行支援事業を行っており、FB活動が障害者の自立や就労支援にもつながるとセンターの開設を決めた。

実際、FBには、食品の集荷・検品、整理・仕分け、箱詰め、運搬・配送などさまざまな仕事があり、障害者ができる作業も多い。

現在、センターには知的障害や精神障害のある5人が登録し、常時4人が通所。活動を通じて人と接したり、感謝されたり、自分より厳しい生活を余儀なくされている人がいることを知り、他者と目を合わすのが苦手でサングラスをしていた人が、相手を怖がらせないように色の薄いメガネに変えたりするなど大きな変化が出ているという。

就労センターの小椋亘・サービス管理責任者は「届けたジュースを子どもが飲んでる姿を見たり、ありがとうと言われたりすることが利用者の自信や喜びにつながっている。就労センターもFBの運営も厳しい状況だが、どちらも人と人とのつながりを大切にする活動。両立させたい」と話している。

## 残酷すぎる乳児産み捨て相次ぐ クローズアップされる望まぬ妊娠と孤立出産



産経新聞 2017年11月17日

大阪市内の病院で10月、生まれて間もない新生児が置き去りにされているのが発見された。母親は逮捕されたが、望まぬ妊娠と「孤立出産」の問題は社会に暗い影を落としている

死ぬ瞬間だけでなく、出生のシーンでも、孤独にさいなまれる人たちが増えている。望まぬ妊娠と、その結果としての「孤立出産」の問題だ。大阪市内の病院では10月、生まれて間もない新生児が置き去りにされているのが見つかった。へその緒がついたままで、院内で分娩された子供ではなかった。その日のうちに逮捕された母親は「家族にも知らせていなかった」と説明した。だれに見守られることなく出産した母親と、生後数時間で捨てられる子供一。その社会的孤立は「まさに今日的課題だ」と専門家は警鐘を鳴らす。

### 「育てることができない」

「赤ちゃんが放置されています」

大阪市東淀川区の病院から大阪府警東淀川署に通報が入ったのは、10月15日の早朝のことだった。

病院の多目的スペースで発見された男児の腹部にはへその緒がついていた。身長49・5センチ、体重2725グラムだった。

この日午前5時10分、男児を抱えた女（27）が「おむつを替えさせてほしい」と病院を訪れ、12分後に1人で立ち去っていた。

男児をくるんでいたタオルケットには、女の親族の名前が書かれていた。女は同日、保護責任者遺棄容疑で逮捕された。

「家族にも出産したことを話しておらず、育てることができないと思った」。女はこう供述した。産んだのはこの日午前1時半。それから4時間足らずで病院に放置した計算になる。

男児の父親については多くを語らなかった。女は住居不定で無職。離婚歴があり、男児以外にも子供がいるが、施設に預けているという。

捜査関係者は「完全なネグレクト。病院なら育ててもらえると思ったのではないか」とみる。男児の命に別条はなかったが、出生時に医療を受けていなかったため、この病院で一時保護された。

### 望まぬ妊娠の背景は…

乳児の産み捨ては後を絶たない。

今年8月には、滋賀県高島市の自衛隊駐屯地で、20代の女性陸士長が隊舎の自室で女児を出産。その後女児は死亡し、滋賀県警に保護責任者遺棄と死体遺棄容疑で逮捕された。

名古屋市では5月、高校2年の女子生徒が出産直後の女児の遺体をかばんに入れ、警察署に出頭するというショッキングな事案もあった。

いずれも予期せぬ妊娠に戸惑い、周囲に打ち明けられないまま、医師や助産師の立ち会いを伴わずに1人で出産していた。

「望まぬ妊娠」の背景はさまざま。養育に十分な経済力のないこと、パートナーの不在、不倫や性暴力の末に妊娠してしまったというケースもある。

人工妊娠中絶を受ける選択肢もあるが、費用がなかったり、そもそも妊娠に気づくのが遅かったりして中絶に至らず、乳児が置き去りにされる悲劇につながってしまう。

### ポストに遺体遺棄も

専門家の立ち会いのない自宅出産（孤立出産）は新生児への虐待といえる。そんな表現でこの問題の危険性を強調したのが、慈恵病院（熊本市）の「このとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）」を検証している同市の専門部会だった。

同部会の報告書によれば、赤ちゃんポストに預けられた子供のうち、孤立出産（自宅・車中出産）の割合は近年大幅に増加。平成23年10月～26年3月の期間が12件だったのに対し、26年4月～29年3月の期間は25件に達し、全体に占める割合も86・2%に上った。

とりわけ関係者に衝撃を与えたのが3年前、乳児遺体がポストに遺棄されたことだった。逮捕された母親の無職女は、両親と息子の4人暮らしだったが、家族には妊娠も出産も知らせていなかった。

「自宅で産んだが死亡した。かわいそうで自分の車で運んだ」。逮捕時にそう供述した母親は後に熊本地裁で有罪判決を受けた。

### 識者「社会全体の問題」

《産後間もない母親と子どもが、ゆりかごを目指して長距離を移動してくるという事例が複数見られた》

《妊娠後ゆりかごへの預け入れを目標設定することで、多少の危険を冒しても目標であるゆりかごへ向かっている心理が窺える。ゆりかご自体は安全が確認された場所として設



置されたが、預け入れ以前のこのような過程は設置当初は想定されていなかった利用状況であり、母子の生命の危険性を脅かすものとして存在している可能性もある》

赤ちゃんポストの直近の運用状況に関する専門部会の検証報告書は、孤立出産のリスクについてこう書いた。

部会長を務めた関西大の山縣文治教授（児童福祉学）は「子供を手放す親の多くは、家族や社会から孤立した状況にある。周りに積極的に関心を持ってくれる人が少なく、自暴自棄に陥ってしまうのでは」と指摘する。

そして「妊娠から逃げ切れなかった女性が、最後に駆け込むのが赤ちゃんポスト」と述べ、こう強調した。

「こういった事案では、性の乱れなど女性が批判されがちだが、男性にも妊娠させた責任がある。望まぬ妊娠は社会全体が男女の問題として捉えることが必要だ」

### 65歳以上の障害者医療費助成 改善求め署名提出 「病院窓口で無料に」



北陸中日新聞 2017年11月17日 石川  
集まった署名を提出する県保険医協会の大平政樹会長（中）ら＝県庁で

障害がある65歳以上の人がある病院で医療費をいったん支払った後に、市町に申請してその金額が2～3カ月後に還付される県の心身障害者医療費助成制度。これを改めて窓口段階で無料にすることを求めた知事宛ての署名が6308人分集められ、16日、県に提出された。（沢井秀和）

署名を呼び掛けていた県保険医協会の大平政樹会長、県社会保障推進協議会の松浦健伸代表委員が県庁で県障害保健福祉課の担当者に署名簿を手渡した。

提出の際、心臓に障害があり、小松市内で一人暮らしする井高えみ子さん（78）は「やっとの思いで歩いて市役所に行って手続きをする。年をとると病気は増え、体の自由はきかなくなる」と訴えた。

弱視の不破伸一さん（63）＝金沢市＝は「65歳になると、自分も対象になるが、目が不自由な者にとって市役所に行くのも、医療費の領収書を封書にまとめるのも煩雑」と指摘。知的障害のある子どもの母親は「私たち親が亡くなった後にどうなるのか。後見人制度がしっかりすればいいが...」と話した。

県の担当者は「どのように考えていくか、検討したい」と話した。

県は、1974年から65歳未満の障害者が病院の窓口で医療費を支払わなくてもいい助成制度を独自に創設。国が老人医療費の無料化を83年に廃止し、65歳以上の医療費の一部が自己負担になり、県は65歳以上の障害者を引き続き無料化。その際に自己負担分を、後で還付する方法を定めた。

65歳以上の助成対象者は約1万5千人。2016年度には4億9千万円が還付されている。窓口で支払わない方法を採用すると、国が市町への国民健康保険の補助金を削減する。65歳未満の障害者の医療費助成は15年度で2億2千万円減らされている。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

